

# 犬の母子相互作用の考察

上 村 菊 朗 (伊豆通信病院)  
森 永 良 子 (       "       )  
佐 藤 能 成 (       "       )  
岡 野 恒 也 (日本女子大学)

犬は人に近く生活する哺乳動物であり、人とコンタクトがつくと、出生時より身近かに観察することが出来る。

犬は1年で成犬となり年2回の出産が可能であるために、短期間で世代の推移を経験できる。

昭和55年度より3年間にわたり、母犬から隔離した仔犬を、人の許で飼育し、動物舎の犬の群の中にもどした後の、仔犬の行動を観察してきた。実験に使用した犬は、ダルメシアン種、雑種の犬で、動物舎内の開放ケージ内で飼育されている。

母犬から隔離された仔犬は、母犬と共に育った同胞犬に比較すると、群への適応に困難を示した。特に、母犬からの隔離が長期間であった仔犬に、適応困難の傾向がみられた。

## 目 的

前回は、母犬から隔離した後、人によって飼育されたが、今回は、飼育を群の中の他の母犬によっておこない、母子関係(養母との関係)と、群への適応の状態を観察したいと考える。

## 方 法

1日差で出産した雑種(58・9・30, ♂2, ♀1), ダルメシアン種(58・10・1, ♂2, ♀2), ダルメシアン種生後7日, 雑種生後8日, 各1頭を, 他の母犬と仔犬のケージ内に入れる。次項について観察。

- 1) 実子と養子に対する母犬の養育態度
- 2) 養子の養母犬に対する依存の状態
- 3) 発達経過について

## 経 過

- ① 生後7日のダルメシアン種仔犬(♂)を雑種母子のケージ内に入れると、雑種母犬は、激しく鼻を近づけ、前脚で押え、声を出して威嚇する。

仔犬は、養母犬にまったく依存を示さず、雑種母犬の興奮が激しく、危険と感じられたので、仔犬をダルメシアン種の母犬の許にもどした。その間、母犬は激しく吠えつづけ、仔犬がもどされると仔犬を喰わえて、だき込んだ。

- ② 生後8日の雑種仔犬(♂)をダルメシアン種母子のケージ内に入れると、雑種の仔犬は、ダルメシアン種養母犬の乳を求めたが、養母犬は鼻を寄せ威嚇するなど拒否を示したが、養子犬は、実子の間に入り乳房を吸うなど、積極的に依存を示した。

- ③ 雑種仔犬は、ダルメシアン種の実子と共に飼育されているが、母犬は、実子と養子では、明らかに養育態度に差がみられた。乳房を吸っている養子を振り払う、排泄の介助をしない、飼をあたえない、養子のみ母犬から離れて寝るなどである。

## 考 察

Scottのいう犬のcritical periodに母犬から隔離し、人が飼育した仔犬と、他の母犬が飼育した仔犬とでは、その後の群への適応に何等かの差がみられるのではないかと考え、観察したいと考えている。

開放ケージと運動場を用いて犬を飼育していると、計画外の行動に接する機会も多く、あわせて、動物舎内でおこる犬の母子行動もみていきたいと思っている。

## 昭和58年度研究報告

昭和55年度より、動物舎内の開放ケージ内で群として生活する犬の母子関係を観察してきた。

その後、母犬から隔離して飼育した仔犬、母犬に保護され成育した障害犬、長期間、母犬と同室ケージ内で育った仔犬らは、成犬となり出産し育

児をおこなってきた。成犬となった上記の仔犬の示した母犬としての行動は、同腹の同胞犬であっても多様であった。

育児態度の安定した母犬、食殺した母犬、乳をあたえないために仔犬を死亡させてしまう母犬などを経験した。

今回は、出産時より観察を続け、成犬となった犬のその後の群の中での行動、特に、母犬となった時の養育態度について考察したいと考えている。

また、たまたま、同時期に出生した二匹の母仔について、仔犬の交換をおこない母仔の行動を観察したので、あわせて報告する。